

お医者さんと、「治療に良い生活」

考えてみませんか

医者さんと言えば「薬」というイメージではないでしょうか。でも患者は、ただ「病人」というわけではありません。人間として生活をしています。その生活をどのようにしたら病気の治療に良いのか、そんなことをアドバイスするのもお医者さんの大事な役目ではないでしょうか。

てんかん治療にとって、薬と同時に、どんな生活を送るのかもとても大切なことです。今回は、次のような柱でお話いただき、講師を交え参加者で懇談します。

- ①治療に役立つ生活とは（生活リズム、睡眠、趣味、人間関係等）
- ②生活習慣病を防ぐためには（食事、飲み物、かかりつけ医等）
- ③患者も家族もより良い高齢期を過ごすには？
- ④重度重複障害児者のより良い生活等

日時 6月22日（日）13:30～16:00

会場 横浜ラポール2階大会議室

講師 三宅 捷太先生

参加費 会員 無料 非会員 1,000円

申込み FAX（次頁）か電話で6月14日をめどに事務局まで。

講師紹介 県立こども医療センター神経内科医長、横浜市中心児童相談所長等を経て、現在、キャマロード（“仲間”）の重症心身障害児者在宅支援多機能施設「みどりの家」併設「みどりの家・診療所」所長。編・著書に『てんかんと療育』（日本てんかん協会）、『てんかんのある子どもたち』（大月書店）等があります。

会場図

事務局開設時間

毎週 火曜日 10:30～15:30

金曜日 14:30～16:00

電話 045-475-2360

FAX 045-548-4836

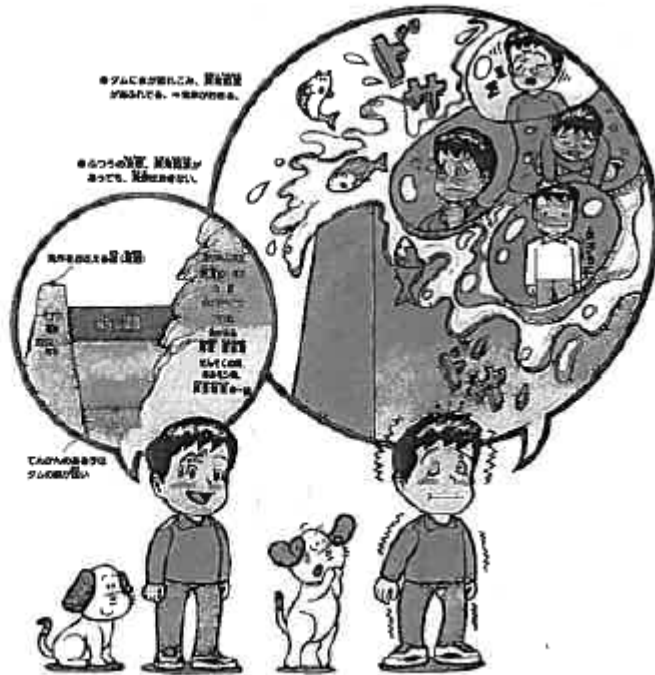


てんかん治療に良い生活とは？

右ページの絵は、レンノックスという医師が作った図をもとに、発作をダムにたとえてわかりやすく描いたものです。レンノックスは、自分の子どもがてんかんだったために、てんかんをなおす方法をいっしょうけんめいに研究しました。そして、このようなダムの絵をつくりました。

絵を見るとわかるように、発作のある子は、ダムの深さが少し浅いのです。だから、雨が降ったりして、山からたくさん水が流れこんでくると、ダムはすぐにいっぱいになって、あふれてしまいます。これが発作です。

(以下略)



日本てんかん協会神奈川県支部事務局行き

第1回てんかん市民講座（6月22日）参加申込書

資料の準備の都合上、講座参加ご希望の方は下記用紙にご記入の上、6月14日（土）をめぐりにFAXまたは郵送もしくは電話でお申込下さい。

| | | |
|-------|---------------|-----|
| 参加者氏名 | どちらかに○をしてください | |
| | 会員 | 非会員 |
| | 会員 | 非会員 |

事前質問（今の段階で質問のある方で可能な方は下記にご記入下さい）

個人情報の取り扱いには十分注意し、この講座以外の目的には使用しません。

申し込み先 日本てんかん協会神奈川県支部

FAX 045-548-4836